

5月30日付「読売」4面

共産党が、夏の参院選で「非同盟」の受け目にならんと、存在感のアピールを強めた。日本維新の会が、橋下共同代表のいわゆる「非同盟」問題などを巡る発言で、共産党の存在感もまた取り戻せぬ。中、共産党は憲法、原発、環太平洋経済連携協定（TPP）など、自民党との対立軸を明確にして、批判戦を取り込む戦略を描く。

共産 存在感アピール

参院選 自民と対立軸 鮮明に

共産党の参院選戦略は、自民党の「非同盟」問題（安）を軸としたものである。橋下共同代表の「非同盟」発言を受け、共産党は「非同盟」問題などを巡る発言で、自民党との対立軸を鮮明にした。中、共産党は憲法、原発、環太平洋経済連携協定（TPP）など、自民党との対立軸を明確にして、批判戦を取り込む戦略を描く。

26歳女性執筆

共産HP「無党派」

6月5日「毎日」社会面

今夏の参院選からインターネットを使った選挙活動が解禁される。共産党は、この機会に「無党派」のイメージを打ち出す。26歳の女性記者が、共産党のホームページに「無党派」のイメージを打ち出す。26歳の女性記者が、共産党のホームページに「無党派」のイメージを打ち出す。

発議要件緩和 絶対だめ

6月2日付「毎日」5面

自民党の古賀議員が、参院選の発議要件緩和を主張している。共産党は、この主張を「絶対だめ」と批判している。古賀議員は、参院選の発議要件緩和を主張している。共産党は、この主張を「絶対だめ」と批判している。

「赤旗」で古賀氏

6月4日付「朝日」天声人語

古賀議員の「赤旗」発言が、参院選の発議要件緩和を主張している。共産党は、この主張を「絶対だめ」と批判している。古賀議員は、参院選の発議要件緩和を主張している。共産党は、この主張を「絶対だめ」と批判している。

「一般紙も注目」「自共対決」「しんぶん赤旗」「共産党のホームページ」

5月30日「読売」が、「共産 存在感 アピール」と報道したのを皮切りに、6月2日の「しんぶん赤旗」日曜版で、古賀元自民党幹事長がインタビューに応じたことを「毎日」「朝日」が取り上げました。またこの参院選からインターネット選挙が解禁

なることから、毎日更新している共産党中央委員会のホームページや京都の党のホームページへのアクセスが増えていることを取り上げました。この他、雑誌やスポーツ紙での記事も増えています。

6月の弁護士相談は
14日(金)
夕方6時〜8時
事前予約が必要です

なんでも相談は
月・水・金の
午前10時〜正午
465-9939

参院選挙 大阪選挙区は定数4で1名増

「週間朝日」(6月7日)では、日本共産党の選挙区議席を2〜3と予想しています。大阪選挙区では、コータローは、(追い上げれば当選の可能性も)と評価しており、私たちの実感と重なります。6月29日は、演説会です。吉見集会所 夜7時からご参加を!

6月6日 6人の議員が一般質問

6月定例町議会は、6日開会され、まず最初に、小川・吉開の共産党議員団をふくむ6人の議員(大門・明貝・仁部・東・吉開・小川・坂口)が順次質問を行いました。

傍聴者は、8人でした。

吉開議員が、田尻町において、就学援助の拡大、福祉風呂の休業にしている点検を早期にやるように求め、小川議員は、吉見の西堀地区の良好な市街地形成における行政責任をただし、シルバー人材センターの積極的な活用でりんくうタウン緩衝緑地帯の環境美化を行うよう求めました。来週の読者だよりで報告します。

